

令和6年度 学校図書館実践報告

新潟市立万代長嶺小学校

1 児童の実態

(1) 読書センターとして

本を好きな子が多く、図書館で本を借りて、朝学習や授業の隙間時間に進んで読書をする姿が見られる。図書館が教室から近いこともあり、低学年の図書館利用が多い。学年が上がるにつれて図書館利用が減る傾向がある。令和5年度の1人当たり貸出数は117冊であった。

(2) 学習センターとして

児童自ら図書資料を見つける力を身に付けたいが、時間を要することもあり、必要な資料を選び出す活動はあまり行われていない。担任と司書が連携して、前もって司書が資料を準備し、教室に運び、いつでも手に取ることができるようにしている。そこで、児童は必要な情報を見つけて活用している。

(3) 情報センターとして

様々な調べ学習にどの学年も意欲的に取り組んでいる。SDGs委員会があること、総合的な学習で防災に関する授業を行うこと、防災デーの実施などから、3年前から、SDGsや防災に関する資料が充実するよう計画的に購入している。児童の関心が高まり、貸出も増えている。特に新刊図書は人気がある。

図書館前に新聞ラックを置き、新潟日報と小学生新聞1紙を購入し、新聞コーナーを設けている。そこで、休み時間に新聞を読んでいる児童がいる。新聞を購入している家庭が少なくなっている。



2 万代長嶺小学校の取組

(1) 読書センターとして

○児童一人あたりの1年間貸出冊数100冊の目標を明確に示す

「1年間で100冊の本と出会う」目標を4月のオリエンテーションで明確に示している。貸出カードは20冊借りるごとに印を押して、児童の目安にしている。100冊以上、200冊以上、300冊以上借りた児童は、委員会の児童が昼の放送で紹介している。放送で名前が呼ばれると、どの学級からも拍手が聞こえてくる。さらに、100冊以上本を借りた児童に多読賞の賞状とシールを渡している。



○読書旬間

11月の2週間、年間行事計画に入れ、年度初めに周知させる。今年度の読書旬間11月6日(水)～11月15日(金)

①朝読書

②地域ボランティアによる読み聞かせ

地域の読み聞かせボランティア「絵本を楽しむ会」が学級ごとに読み聞かせを実施。昔話は語りで伝わってきたことから、すべての学年で「語り」を入れてもらえるよう依頼して、日本や外国の昔話の語りをしていただいた。毎年継続して実施していることで、読み聞かせや語りの内容を考慮していただいている。



＜地域ボランティアによる語り＞

③図書館とのコラボ給食(本に出てくる料理を給食のメニューに) 4回

令和6年度 本に出てくる料理

- ・『精霊の守り人・闇の守り人』 …… 山菜鍋、ロツソ
- ・『風にのってきたメアリー・ポピンズ』 …… いちごジャムのカップケーキ
- ・『どんぐり山のやまんばあさん』 …… きのごはん、やまんば汁、栗コロッケ
- ・『トックパを食べよう』 …… トックパ

栄養教諭の協力で5年前から読書旬間中の給食に図書館とのコラボメニューが出されている。栄養

教諭が夏休みに裏面の本を読み、物語から給食用にメニューを考え、試作をして、給食に出していただいた。児童は献立予定表を見て楽しみにしていて、当日も喜んで食べていた。今年度は4日分の給食が図書館とのコラボ給食になり、大好評だった。



給食の献立になった本

11月の献立表より

【図書館とのコラボ給食 ④】『トリパパをたべよう』										
ゆでうどん	このぼこ								土	622 kcal
★トリパパ	じゃがいも	あぶら	とりにく	トリパパ	にんじん トマト	たまねぎ にんにく	かぶ しお	だ		24.7 ㍉
19日	さつまいもと大豆の揚げ煮	さつまいも	でんぷん	あぶら	だいず		しょうゆ	じ		16.1 ㍉
乾燥フルーン						フルーン		塩		1.5 ㍉
牛乳						ぼろろ				



④給食時のテレビ放送

全校と各学年の貸出冊数ベスト3の本と貸出冊数の紹介。読書旬間の取組紹介。図書館で100冊以上本を借りた児童の人数紹介。

<テレビ放送で紹介した貸出ベスト3>

⑤教職員による本の紹介

学校図書館にある蔵書で、教職員が心に残っている本や児童に読んでもらいたい本を「紹介カード」にかいてもらい、図書館前に掲示し、本を置いた。児童が教職員のおすすめする本に興味を示し、次々に借りて読んでいた。

⑥児童による本の紹介

心にのこった本を「読書 おすすめカード (A4画用紙)」にかき、学級で掲示。

⑦図書委員会による活動

- ・ 読書旬間のキャッチフレーズを決めた。
令和5年度「本はだいじなたからもの」
令和6年度「本はきのこ～今が旬～」
- ・ 読書郵便
- ・ しおりづくり



<読書郵便>



<児童の読書郵便としおり>

⑧縦割り班 (にじいろ班) での読書集会

読書旬間最終日11月15日の朝学習で実施。

- ・ 縦割り班の6年生が読み聞かせ (10分間)、5年生が6年生の選書した本を読んで読書クイズを作って、クイズを出した (5分間)。
- ・ 司書教諭が朝学習に6年生に読み聞かせに向く本の選書の仕方と読み聞かせの仕方 (本の持ち方、ページをめくり方、読み方など実際に読み聞かせをして指導)、5年生に読書クイズの作り方を指導した。読み聞かせに向く本を司書、司書教諭で前もって選書しておいた。

読書旬間中、友達や教職員の本の紹介、読書郵便などで、次の読書につながるきっかけができ、貸出冊数の増加につながった。



<教職員のおすすめの本>



<学級の友達のおすすめの本>



<読書集会の読み聞かせ>

○委員会活動での取組

本が好きな児童が多く、本の貸出の当番活動に進んで図書館へ来て活動している児童が多い。主な取組は本の貸出、本棚の整理、図書委員会体験（4、5年生）、本の紹介カード作成（ポップ作り）、多読賞の紹介（昼の放送）、図書館の飾り作り、読書旬間の活動などである。

(2) 学習センター、情報センターとして

○各学級での図書資料を活用した授業実践（別紙資料）

○防災図書館

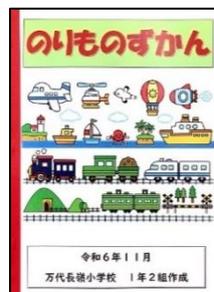
毎年、地域行事である防災デーが10月に行われている。令和6年度は10月20日（日）に防災授業（学習参観）、引き渡し訓練、防災活動が行われた。防災活動の13のブースの中で図書館も防災図書館として防災に関する資料を集めて展示し、実際に親子で防災に関する本を読んでもらった。低学年が理解できる資料が少なく、ほんぽーと中央図書館からも本を借りて対応した。多くの親子が防災に関する本に親しんでいた。



○特設コーナーの設置

①学習の成果の展示（ポップづくり、のりものずかん）

毎年、主に4年生、5年生で、国語の学習でかいたポップを図書室に置いている。どの学年も丁寧に心をこめてかいている。興味をもって見ている児童が多く、次の読書につながっている。1年生の国語の学習で作った「のりものずかん」も図書館に置いている。



②青い目の人形コーナー

万代長嶺小学校では、青い目の人形「サラ」が日本とアメリカの親善と平和を語る資料として大切に保存されている。戦争中は敵国の人形として処分されたため、現在日本にある約300体の青い目の人形のうちの1体である。新1万円札に描かれている渋沢栄一氏が昭和2年に悪くなっていた日本とアメリカの関係が良くなることを願って行われた交換事業に関わった人形である。児童に興味・関心をもってほしいという願いから年間を通して、「青い目の人形コーナー」を設けている。総合的な学習などで毎年、青い目の人形について児童が意欲的に調べ学習に取り組んでいる。



③学校行事や季節に関連した本のコーナー

運動会、マラソン記録会、卒業式など学校行事や季節に合わせた本の特設コーナーを設けている。昨年度は卒業式に向けたカウントダウンに合わせて、司書が30日前から卒業に向けて読んでほし

い本の紹介をした。写真のように『ぞうのホートンたまごをかえす』の本と作者のコメント「泣かないで、もう過去のことだから。笑って、だって今起きていることだから」と一緒に紹介した。児童は、6年生だけでなく、毎日紹介される本に興味を示していた。



<暑い夏に読みたい本>



<冬休みにおすすめの本>



<卒業に向けて おすすめの本>

3 ほんぼーと中央図書館との連携

○校外学習

学習内容に合わせて、令和6年度は全校の約半分の児童の2年生（生活科）、3年生（総合的な学習）、6年生（総合的な学習）がほんぼーと中央図書館に校外学習へ行った。校外学習では、職員から話を聞くことで、多くの学びがある。学区ということもあり、児童の中には、日常からほんぼーと中央図書館を利用している児童もいる。

○資料の充実

図書館活用単位では、自校の図書資料だけでなく、学区にあるほんぼーと中央図書館から資料を借りて資料の充実を図っている。



4 宮浦中学校区 小・中学校連携の取組

各校の司書および司書教諭でZOOM会議を実施した。各校の取組についての情報交換を行い、連携を進められるようにロイロノートを利用して情報を共有した。

夏休みの図書館開放の際に、宮浦中学校の図書館を小学生も訪問できるように開放していただいた。

5 成果と課題

<成果>

- ・ 年度当初に全体計画を提示し、計画的に図書館運用をすることができた。司書、司書教諭、教職員が連携して実践にあたった。本の紹介で、児童は自分では選ばない本と出合うきっかけができ、本の予約冊数が増えた。次の読書につなげることができ、予約した本を読むことを楽しみにしている児童が多い。
- ・ 今年度は教科書の変更により、図書館活用計画の修正を図り、教科書関連図書を計画的に購入するようにした。さらに、必要な資料は、学区にあるほんぼーと中央図書館を利用することで学習に合わせて計画的に準備することができた。

<課題>

- ・ 児童は全体的にすすんで読書をする姿が見られるが、学年が上がるにつれ、図書館を利用する機会が少なく、じっくり読書を楽しむ機会をなかなか確保できない。教員と連携し配当時間を確保することや休み時間の利用を促すだけでなく家庭での読書活動の推進のための取組が必要となる。
- ・ はたらく細胞、サバイバルシリーズなどのシリーズ本は人気があって、予約でいっぱいである。予算の減額で、複本で購入するのは難しいので、児童の希望に添えないことがある。
- ・ 授業で調べ学習を行う際には図書資料を活用してもらうように、教職員に自校の蔵書やオレンジBOXの内容の周知をさらに徹底していきたい。